

静岡県教育委員会

議事録

令和6年度 第16回定例
12月3日(火)

静岡県教育委員会教育長 池上重弘は、

令和6年12月3日に教育委員会第16回定例会を招集した。

1 開催日時 令和6年12月3日（火） 開会 13時30分
閉会 13時58分

2 会 場 教育委員会議室

3 出席者 教 育 長 池 上 重 弘
委 員 伊 東 幸 宏
委 員 小野澤 宏 時
委 員 天 城 真 美
委 員 飯 村 幸 生
委 員 渡 村 マ イ

事務局（説明員） 水 口 秀 樹 教育部長
塩 崎 克 幸 教育監
宮 崎 文 秀 理事（政策管理担当）
本 多 伸 治 理事（新図書館担当）
藤ヶ谷 昌 則 参事兼社会教育課長
高 林 伸 成 教育総務課長
秋 野 薫 教育政策課長
大 澤 篤 篤 教育DX推進課長
上 原 啓 克 財務課長
内 山 成 一 教育厚生課長
横 田 恭 子 教育施設課長
戸 塚 康 史 義務教育課長
中 村 大 輔 高校教育課長
山 村 仁 特別支援教育課長
夏 目 伸 二 健康体育課長
金 嶋 克 年 新図書館整備課長
渡 邊 晃 静岡教育事務所長
堀 内 祥 行 静岡西教育事務所長
杉 山 禎 総合教育センター所長
高 橋 健 二 中央図書館長

4 その他

(1) 報告事項は了承された。

【開 会】

教 育 長： ただ今より、教育委員会定例会を開催する。
今回の議事録の署名は、私のほか、飯村委員にお願いする。

教 育 長： それでは審議を始める。

報告事項1 第38期静岡県社会教育委員会報告書（手交）

教 育 長： 本日は、松永由弥子社会教育委員長、鈴木一行委員にお越しいただき、教育委員会の諮問を受けて話し合われた社会教育委員会の内容について、報告をしていただく。進行は、藤ヶ谷参事兼社会教育課長にお願いする。

参事兼社会教育課長： <概要説明及び手交の進行>

※ 報告書手交

社会教育委員長： <報告事項について説明>

鈴木社会教育委員： <報告事項について説明>

教 育 長： 質疑等はあるか。

天 城 委 員： チェックシートを実際に取り組みられたと思うが、取り組んでみてどのように感じたか。また、報告書に書かれていること以外で、チェックシートをやってから、何か別のアクションを起こしたなどがあれば教えていただきたい。

鈴木社会教育委員： 私たち社会教育委員は、これを使いチェックを行った。私も自分がやっている活動を中心にチェックを行い、どことどの様な形で繋がっているのかという部分を確認した結果、繋がりの薄いところもあることがわかった。そういった部分について、もっと繋がりを深くすることができていれば、学習の場も広まりが深められたのではないかと反省した。それを今後の活動に繋げて行きたい。

飯 村 委 員： 非常に面白い活動だと思うが、ウェルビーイングというのが、企業でもどういう捉え方をするかなかなか難しい。非認知能力の活動と非常に似ているところがあって、大きな違いは経済力をどう算定するかである。いくら繋がっていても経済力がないと、ウェルビーイングはゼロだと思う。食事ができない人が繋がっていけばよいのかという話になると、ちょっと違う。経済力をどう算定して、組み込んでいくかというのは、どの様に行ったのか。

鈴木社会教育委員： 飯村委員御指摘のとおり、経済的に成り立っていないと、上手く繋がれないなということは当然ある。経済的にどうかというところを特に視野に入れて検討はしなかったが、繋がることによって、そのような悩みを知ることができる。繋がりがなければ、この人が本当に経済的に困っているということがわからない。いろいろな方と繋がることにより、自分が助けられなくても、繋がりをを持った周りの人が少し援助することができるということも含め、繋がりが大切であると再認識した。

飯 村 委 員： 仕組みまで落とし込まないと、ウェルビーイングは繋がりと経済安定性の2つが大きな要素である。1個で全部コミットしているというのは、どうやって経済安定性を担保できるか疑問がある。

社会教育委員長： 社会教育委員が関わっている部分は、お金の部分がなかなかコミットできていないというのが正直なところ。ウェルビーイングで捉えているところは、文部科学省の中教審で出ている部分を土台に考えており、報告書の14・15ページにある。今回、私どもの会合の中ではベース

として、「人間と人間の繋がり」というところを議論した。そして、このことを実現する為にも、経済的な問題というのが関係あることが浮き彫りにされてきた。「おわりに」のところに記載したが、行政に対して予算配分等の要求をしている。

飯村委員： 直接お金がどうであるかということではなく、繋がりの中でセーフティネットをどの様に作るかである。お金が無くて食べられない子は繋がれないというものではない。

社会教育委員長： その点については、福祉分野との連携の中で、社会教育としてできそうなことは、お金が無くても参加できるような仕組みを作るということである。お金を出して呼び込むのではなく、お金に関係なく呼び込める仕組みが必要だということを、以前提案させていただいた。

飯村委員： 提案に対する採択がないのは、それが難しいからである。しかし、それに言及しないというのはどうなのかと思う。我々のところに資料がないので、どこまで言及されているのかわからないが。ウェルビーイングを耳障りの良い話で終わらせないようにするためには、経済安定性のところまでどう言及していくかということが大切。

社会教育委員長： 社会教育委員の場合は個人個人で任命を受けているため、その部分は委員会を離れ、今後個別に行政とアイデアを出し合いながらどう考えていくか検討していきたい。

飯村委員： ギブアップしないで続けてもらいたい。

伊東委員： 繋がりというものに着目をして、チェックシートまで作っていただいたことは大変意義深いと思う。先程の質問とも関連するが、ウェルビーイングというものを捉えるときに、繋がりということがひとつの重要なファクターであることは十分理解しているが、その他にどのようなものがあるか、その中から繋がりというものをピックアップしたのか教えていただきたい。今お話のあった、経済力はウェルビーイングを支えていく為に必要なファクターであると思うが、他にどのようなものがあるのか。

社会教育委員長： 概要版に、関係性が書かれている図がある。これがグループワークの際に、ウェルビーイングを成り立たせる要素として何があるかということについて意見を出し合い、まとめた図である。ウェルビーイングというものを誰もが今より少し良い未来と捉え、個人的要素、関係的要素、環境的要素の3つがあり、その人が生きやすいと感じているのではないかと捉えた。この中で最も重要なところが、繋がりを意識した活動ではないかということで、繋がりにフォーカスしていったプロセスがある。

伊東委員： 先程の経済的な側面は、ここでは環境的要素に含まれると捉えて良いか。

社会教育委員長： そうである。委員の構成として教育分野と福祉分野の方が多く、経済的なことを切り込む方がいなかったため、環境的要素があまり出てこなかったことが弱点である。

教育長： 他に質疑等はあるか。

教 育 長： 去年の今頃、生涯学習推進フォーラムがオンラインで開催され、そのとき私も久しぶりに研究者モードで基調講演をさせていただきました。ウェルビーイングという言葉は最近よく人口に膾炙する言葉であり、身体的、精神的、社会的に良い状態にあるという定義が中教審でなされている。一般にそういう理解であると思う。今、飯村委員が御指摘された、経済的な基盤とは、おそらくここでいう身体的な良い状態のケースである。この委員会自体が、社会教育委員会という一つの大きな議論の枠組みがあり、その中で見たときに、精神的、社会的というところにフォーカスがアツてくる。さらに、個人的、環境的、関係的の3つがアツて、それぞれが関係しているというお話をいただいた。私がフォーラムのときに持ち出した概念は、社会関係資本というもの。これは20年近く前にアメリカで言われ始めた概念で、経済的資本、土地やお金、文化資本、学歴とか語学能力など、そういったものとは別に社会関係資本、社会関係の豊かさ、今回のこの報告書では、繋がりや豊かさというものも、人間が生きていく中で重要だろうという概念として出てきた。今回の報告書の中で、社会関係というものが、それぞれの委員の中でどうなっているかというのがチェックシートで描かれており、そういった社会関係をより豊かにするには、どういう社会教育環境が必要なのだろうかというお話を御提案いただいたと理解している。たくさんあれば良いというものでもないし、少なくともそれがとても濃密で、お互いがサポーターティブなものであれば、ウェルビーイングに繋がってくる。また、広く浅くだが、いろいろなところに相談できる人がいることで、困った状況のときも相談しやすい。その様子を各団体や各自でチェックしてみましようというチェックシートを作成していただいたのは、今までの報告書と違うと思う。今回いただいたばかりで、まだ全部を読んでいないが、継続している委員会であるので、次期の委員会の議論に向けてコミットできる部分があれば関わっていききたい。

教 育 長： 他に質疑等はあるか。無ければ、最後に松永委員長から、この場での議論を踏まえてコメントをいただきたい。

社会教育委員長： いろいろと御意見をいただきありがたいと思う。社会教育は教育の中でも関心が薄い分野ではあるが、教育長のお話にもあった視点から、人々が生涯にわたって学ぶとなったときに非常に重要な分野である。いろいろな教育問題を解決できる糸口を、今後も提供できたらよいと思う。引き続き、より良い社会教育の状況を作り出されるよう、委員として、また委員会としても議論、提言をしていきたい。今日は貴重な時間をいただき感謝申し上げます。

教 育 長： 以上で報告事項1を了承する。

教 育 長： 以上で、本定例会の議事は全て終了した。

これをもって、令和6年度第16回教育委員会定例会を閉会とする。